

月報 シオン山

2026年4月5日発行 (No506)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下道津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

.....

【月間聖句】

しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、
眠りについた人たちの初穂となりました。

(コリントの信徒への手紙 I 15章20節節)

知られないわざによって

加藤英治

「主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て、飲み物を差し上げたでしょうか。」(マタイ25・37)

私がイエス・キリストへの信仰に導かれたのは、一枚のトラクトがきっかけでした。そのトラクトは、私が幼い頃、未信者である母が、職場で誰かからもらってきたものでした。「こんなものをもらったんだけど、読んでみる」とか、そんなことを言われたのだと思います。2枚のトラクトで、一つは小説家三浦綾子さんに関するもの、もう一つは子ども向けでイラスト付きのものだったと記憶しています。その特に子ども向けのものを読んでいる時に、私は、「イエス・キリストが私のために十字架にかかり死んで、私の罪を赦してくださった」ということを知り、信じたと思います。本当に不思議なことですが、そうでした。もう一つ不思議なことは、そのことにあたって未信者の母が用いられたということです。母はとうとう明確なキリスト信仰を持たずに亡くなりましたが、神の御手はそのような人を用いることも全く問

題ではないということを、明らかに示しているのではないのでしょうか。

その後私は、そのトラクトについていた葉書を送って、「聖書通信講座」を受けました。それが全部終わり、記念品として新約聖書をもらい、「教会にぜひ行ってください」ということになったのですが、これも不思議なことですが、私は当時住んでいた家の近くに教会があるということ、なぜか知り、覚えていたのです。それで実際に行ってみたら、そこにやはり教会がありました。それが、日本バプテスト連盟の南名古屋教会だったのです。その教会学校に約7年通った後、高校二年生の終わりにバプテスマを受けました。その後大学時代に「献身」ということを決意し、紆余曲折の末に大学卒業して1年後に西南学院大学神学部に入りました。神学校卒業後、26歳で直方教会の牧師となり、その後高崎、姪浜、四日市といくつかの教会で牧師として働きました。そして今に至っているわけです。

今思うと本当に不思議だと思うのは、やはりあのトラクトです。どう考えても、そこから始まったとしか思えません。さらに不思議なのは、私はそのトラクトを配ってくださった方が、だれであるか、どんな方なのか、今もって知らないということです。でも、きっとその方はクリスチャンだったのでしょう。トラクトを人に渡すくらいですから。そしてその方もまた、今もって、自分が蒔いたものが、どんな実をもたらし、どんな結果となったのを知らず、その喜びや幸いを味わっておられないと思います。自分が渡した一枚のトラクトが、一人の人にイエス・キリストへの信仰を与え、生き方と人生を変え、さらにその人が牧師にまでなったということ、思いもしておられないと思います。それでもいつかは、やがて神の国が到来し、新天新地が成るとき、神の前で知られることになるかもしれませんが。いずれにしても、神の業は「知られないわざによって」行われ、実現したのです。

私たちも、本当は、自分が神のため隣人のためにしていることを「知らない」のではないのでしょうか。それがどんなふうに使われ、どんなことを実現し、どんな実を結ぶに至っているのか、また将来至るのかということを知らないのではないのでしょうか。それは間違いなく、恵みだと思います。「知らない」ことで、私たちは神に信頼することができます。「知らない」ことで、私たちは神に期待することができます。「知らない」ことで、私たちはへりくだって神に委ねることができるのではないのでしょうか。

新しい年度私たちは、「知らなくても」、一つ一つのわざを、その奉仕を、その祈りを、神への信頼と期待をもって果たして行きたいと祈り願います。